

成瀬悟策先生を偲ぶ

一催眠を牽引され、臨床動作法を開発されたブリーフ精神の持ち主一

(東洋英和女学院大学) 長谷川明弘

成瀬悟策先生が2019年8月3日に95歳で
ご逝去なさったという訃報を知ったのはその日か
ら数日後でした。

成瀬先生のお名前を初めて知ったのは私が
1991年の大学1年の頃に元助手の方から催眠
を学び始めた頃でした。その後、エリクソンの催
眠を学ぶ機会に宮田敬一先生と出会い、宮田先
生の恩師が成瀬悟策先生であることを知りました。
私からすれば、恩師である宮田先生のさらなる恩
師である成瀬先生は特別な存在でした。

初めて成瀬先生のお姿をお見かけしたのは、
1994年秋で大学4年の時でした。大学院の進学
予定先である新潟で宮田先生が大会長を務めら
れた催眠に関する学術大会のシンポジウムにて
フロアーから挙手をされて活発な議論を登壇者
に投げかけておられるご年配の方がいらっしゃい
ました。遠巻きに拝見したので、どのような方かは
知るよしもありませんでした。大会閉会後に、宮
田先生に先ほどの方はどなたかと伺うと「あれが
成瀬先生だよ」と言われました。「(学生の頃は成
瀬先生のことが)とても怖かったよ」とおっしゃい
ました。成瀬先生からすれば孫弟子に相当するで
あろう私は、とてもやさしい方という記憶が多い一
方で、端々に伺える厳格さを感じておりました。
宮田先生をはじめ直接学んだ弟子と言われる方
達から伺う成瀬先生のエピソードは、論文指導で
最初の数頁に目を通して「これは論文ではない」
と突き返されたとか「鋭くて、怖くて、厳しい」とい
う印象や、一方で弟子との間では「成瀬先生」とい
う呼称ではなく「成瀬さん」と呼んでもらう雰囲気
を好んでおられたようです。

成瀬先生からは催眠だけでなく臨床動作法の
研修会で指導を受ける機会が何度もございま
した。合宿形式の研修中に朝食会場に早い時間
に向かうと成瀬先生とお話をする機会に恵まれ
ました。ある時は、朝の散歩から戻ってこられた成瀬
先生のお近くに席を移してお話を伺いました。ミ
ルトン・エリクソンとの交流の話しでは、戦後に貴
重な文献をまとめて送付してきてそれを仲間と読
んだことや、エリクソンの奥様が魅力的で素敵で
あったエピソード、成瀬先生自身の実践してきた
ことがエリクソンからも大きく影響を受けていたと
振り返ってみて気づいたということをお伺いし
ました。事象を実験で検証するなど科学的な姿勢、臨床
実践では可能な限り短く、あまり負担を掛けない
関わりをして「治す」という矜持で臨んでいることを
話されました。また2010年代半ばの心理職国家
資格化の渦中の頃に伺った時は、国家資格化
へ大反対されていたある方が大病をされてお見
舞いの電話をなさったおりに、「『河合くん(河合
隼雄先生のこと)がこっちへ来いと呼んでいるの
ではないか』と話したよ」と茶目っ気たっぶりにお
話しになりました。

2019年6月末が成瀬先生のお姿を拝見した
のが最後でした。研修会での講義の冒頭で、催
眠と動作法の関係について「ここで話すのは長
くなるので又の機会にしたい」とおっしゃり、秋の
大会の折りに伺えると期待しておりました。

成瀬先生から直接に影響を受けた1人として、
また催眠や動作法、そしてブリーフの姿勢を学ん
だ1人として、腕を磨き、真理を追究するように努
力していきたいと思っています。